

1. 第4回国際シンポジウム

新学術領域研究第4回国際シンポジウムは、12月11日(土)～12日(日)の日程で、大阪梅田の**ブリーゼ・プラザ**で開催されます。今回は第5班「国家の輪郭と越境」が組織します。12月10日にはプレシンポジウム企画としてITP国際若手ワークショップが開かれます。建物は同じですが日によって会場となる部屋が変わりますのでご注意ください。

このシンポジウムでは、地域大国内部のマイノリティ、国外のディアスポラ、周辺国、これらの場を往来する人間のモビリティといった、「周縁」的存在によって地域大国像を照射することを目指します。[山根・長縄]

新学術領域研究第4回国際シンポジウム

「回帰と拡散：地域大国における人間の移動と越境」

Regional Routes, Regional Roots? Cross-Border Patterns of Human Mobility in Eurasia

12月11日(土) 会場：**ブリーゼ・プラザ 803-804号室(8階)**

10:00 - 10:15 開会式

10:15 - 12:15 セッション1 聖地巡礼：信仰と消費

・高山陽子(亜細亜大学)

紅い土産物——中国におけるプロパガンダ・アートの商品化

・アイリーン・ケイン(コネチカットカレッジ, 米国)

ロシアからのメッカ巡礼ルートにみる経由地

・小磯千尋(大阪大学)

西インドにおけるヒンドゥー教徒の二つの巡礼路

・討論者 守川知子(北海道大学)

・司会 古谷大輔(大阪大学)

13:30 - 15:30 セッション2 故郷を遠くで想う：ディアスポラへの招待

・グルナラ・メンディクロヴァ(世界カザフ協会ディアスポラ研究センター, カザフスタン共和国)

カザフスタン共和国におけるカザフ・ディアスポラをめぐる政治

- ・スーラト・ホラチャイクル (チュラロンコーン大学, タイ)

インド系タイ人とそのインドとの関係

- ・劉宏 (南洋理工大学, シンガポール)

第二の故郷? ——中国国家と新たなディアスポラの誕生

- ・討論者 赤尾光春 (大阪大学)

- ・司会 岡奈津子 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)

15:45 – 17:45 セッション3 モバイル・ビジネスマン: 商人ディアスポラとネットワーク

- ・アルツヴィ・バフチニアン (アルメニア科学アカデミー歴史学研究所, アルメニア)

国際貿易にみるアルメニア商人の活躍

- ・ステイーヴン・デール (オハイオ州立大学, 米国)

インド人商業ディアスポラ——その広がり と 生業

- ・久末亮一 (政策研究大学院大学)

シンガポールにおける華人系銀行の形成: 20世紀前半における背景と展開

- ・討論者 大石高志 (神戸市外国語大学)

- ・司会 吉村貴之 (東京外国語大学)

12月12日(日) 会場: **ブリーゼ・プラザ小ホール (7階)**

10:00 – 12:00 スペシャルセッション 知識の拡散: エリート養成と国家の輪郭形成

- ・ジョーティ・R. ダンデーカル (バーラティ・ヴィディアーピート大学, インド)

教育大国としてのインド——プーナ大学の留学生科設立の経緯とその後

- ・ラフィク・ムハメトシン (ロシア・イスラーム大学, ロシア連邦)

ロシアにおけるイスラーム大学教育の発展——課題と展望

- ・3人目の報告者については交渉中

- ・討論者 山根聡 (大阪大学)

- ・司会 田畑伸一郎 (北海道大学)

13:30 – 15:30 セッション4 周縁からの問いかけ

- ・マイケル・レイノルズ (プリンストン大学, 米国)
帝国の終焉——20世紀初期におけるクルド人の位置付け
- ・登利谷正人(上智大学)
地域大国の狭間で——緩衝国としてのアフガニスタン (19世紀後半)
- ・ウラディン・E. ブラグ (ケンブリッジ大学, 英国)
マイノリティの視角——初期社会主義中国における政治観光と民族の語り
- ・討論者 王柯 (神戸大学)
- ・司会 山口昭彦 (聖心女子大学)

15:45 – 17:45 セッション5 移動がもたらすもの：移住と定住

- ・中谷純江 (鹿児島大学)
故郷への投資——インド商業集団, マールワリーの経済活動
- ・崔延虎 (新疆師範大学, 中国)
遊牧と定住の間——新疆遊牧社会における社会文化的な変遷に関する事例研究
- ・3人目の報告者については交渉中
- ・討論者 ジェフ・サハデオ (カールトン大学, カナダ)
- ・司会 松里公孝 (北海道大学スラブ研究センター)

17:45 - 閉会式

2. 第1回ITP国際若手ワークショップ

スラブ研究センターが実施するITP事業「博士号取得後のスラブ・ユーラシア研究者の能力高度化プログラム：跨境的アプローチと比較分析」も後半を迎えましたが、残りの事業期間中、派遣者が築いてきた国際的なネットワークを活用して、小規模の国際シンポを連続して開催することになりました。第1回の国際シンポは、第2期派遣者である溝上宏美さん(オックスフォード大学に2009-2010年に派遣)が組織し、新学術領域研究国際シンポジウム「回帰と拡散：地域大国における人間の移動と越境」の附属企画(前日祭)として、下記の要領で開催することになりました。国際シンポジウムと同様、「移民」がキーコンセプトとなります。溝上さんは、人文社会学系の情報交換サイト[HI-Net](#)を使って、

報告者を国際的に公募し、選抜しました。その結果、ご覧のように、若いけれどもすでに第一線で活躍する研究者が報告します。今後、ペーパーもHP上からダウンロードできるようにしますので、奮ってご参加ください。[松里]

* I T P 事業について詳しくは[こちらのホームページ](#)をごらん下さい。

第1回 I T P 国際若手ワークショップ「帝国としての過去と移民—日ロ英の国際比較」

主催：北海道大学スラブ研究センター

期日：2010年12月10日（金）

場所：ブリーゼ・プラザ 805号室（8階）

会議言語：英語

14：00—14：10 開会

14：10—15：20 セッション1 ユーラシア内の移動 - ロシアとソ連，帝国の陰影

議長：長縄宣博（北海道大学スラブ研究センター）

コメンテーター：Mendikulova, Gulnara（世界カザフ協会ディアスポラ研究センター，カザフスタン）

報告者

・ Sahadeo, Jeff（カールトン大学，カナダ）

最初の遭遇：戦後のレニングラードとモスクワにおける非ロシア系「有色人」

・ Peyrouse, Sebastien（国際関係戦略研究所，フランス）

中央アジアからのロシア系住民の帰国問題——移住の流れと反ロシア感情の問題——

質疑応答

15：20—15：40 休憩

15：40—16：50 セッション2 海を越えた移動 - 日本帝国とイギリス帝国における事例

議長：長縄宣博（北海道大学スラブ研究センター）

コメンテーター： Kane, Eileen (コネティカット・カレッジ, アメリカ)

報告者

・ Rands, David (フロストバーグ州立大学, アメリカ)

日本におけるコリアン：植民地から帝国の中心へ

・ 溝上宏美 (京都大学)

帝国からコモンウェルスへ - ポーランド亡命軍兵士の受け入れをめぐるイギリス政府の対応

質疑応答

16:50-17:00 閉会

3. 新学術領域研究の中間評価でA評価

3年目を迎えた新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較」は、文科省の定めに従い、この8～9月に専門家による中間評価を受けました。このほど、A評価（研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる）を受けたという通知がありました。

中間評価は、「評価要綱」に則り、「科学研究費補助金における評価に関する委員会」のなかの「人文・社会系委員会」によって行われました。ヒアリングは、9月13日に文科省で行われました。「中間評価に係る意見」は次のとおりでした。[田畑]

本研究領域は、ロシア、中国、インドを現代の世界秩序に挑戦する「地域大国」と位置づけ、これらの国々の特殊性・固有性を探究するとともに、共通性を抽出し、さらにはそれを通じて世界システムの理解の深化を目指すものである。

その調査方法の一環として、地域研究者が専門外の地域に相互乗り入れを行っていることは注目に値する。これらの調査を通じて、学会誌レベルの論文も精力的に生産され、「帝国とその崩壊プロセスの比較」「地域経済統合」「内政比較」などの大きなテーマをめぐって、着実に研究成果が挙がっている。国内外の学会でセッションやラウンドテーブルを設置するなど、研究成果の公表についての積極的な姿勢も評価できる。公募研究も研究領域の特色を反映しており、計画研究と公募研究の連携もよくできていることも高く評価でき

る。

今後の研究を通じて、「世界システム」「文明圏」「帝国」などの大概念についてのさらなる検討と、個別の研究課題についての研究成果を統合する、より大きな議論や理論的枠組みの提示が期待される。なお、この研究領域で行われている、地域研究者の相互乗り入れについては、その方法を通じて具体的にどのような新しい発見が行われるのかということ、より方法的・体系的に明示してもらいたいという意見も出され、地域研究の方法論の再検討のための貢献も期待される。

また、大きな理論的枠組みの提示という課題に関しては、各研究グループを越えての大きな議論の場があまりつくられていないという意見があり、そのような議論の場がより多く設けられ、より大胆な理論化がなされることが期待される。

4. 第3回国際シンポジウム開催される

7月7～9日に新学術領域研究の第3回国際シンポジウム（2010年度スラブ研究センター夏期国際シンポジウム）が予定通り開催されました。今回のシンポジウムは、この領域研究のなかで計画研究「地域大国の文化的求心力と遠心力」を行っている文化班（第6班）を中心に組織され、この計画研究の研究代表者の望月哲男（SRC）が組織委員長を努めました。全体のテーマは、「Orient on Orient: ユーラシア諸国におけるアジアの自己表象」とされ、中国におけるサブカルチャー、アジアの表象 I、アジアの表象 II、音楽における東と西、宗教とイデオロギー、越境する作家たち、場所の精神の7セッションが設けられました。

今回のシンポジウムには総計で21本の報告が行われました。報告者・討論者のうち外国人研究者は16人（そのうちシンポジウムのために国外から招聘した研究者は10人）で、中国、インド、イギリス、ロシア、アメリカ、スウェーデン、ドイツからの研究者が含まれていました。複数の言語文化圏にわたる議論のための共通語として英語を使ったため、部分的にはいくぶんコミュニケーションの難しいところもありましたが、参加者全員の努力と協力で、大半のパネリストおよび聴衆にとって有益な議論が展開されたと思われま。3日間のシンポジウムに計116名が参加しました。[望月]

詳しくは[スラブ研究センターのHP](#)をごらん下さい。

5. 全体集会開かれる

7月7～9日の国際シンポジウムに引き続き、7月10日（土）に新学術領域研究の全体集会センターで開催されました。今回の全体集会は、8～9月に本領域研究に対する中間評価が行われることから、「これまでの研究の集約と今後の研究の方向性」をテーマとしました。基本的に各計画研究班の代表がこれまでの各班の研究成果と今後の研究の方向性について報告しました。討論者は、岡部達味氏（東京都立大学名誉教授）と小長谷有紀氏（国立民族学博物館）にお願いしました。痛いところも沢山突かれましたが、本領域研究の今後の発展につながるコメントをいただけたと思っています。また、人文科学系の研究と社会科学系の研究を今後統合していくために何をしなければならないかという大きな課題の展望も見えてきたように思います。この全体集会の内容は、『地域大国論集』第4号として刊行されます。[田畑]

6. 外国人研究員

第1班の新学術領域外国人研究員として、インド防衛問題研究所（IDSA）のシャムシャド・ハーン氏の採用が決まりました。日本研究および国際関係論を専門とされており、新学術領域のプロジェクトでは *Indo-Japan strategic relations: India's search for reciprocity* というテーマで研究活動を行います。ハーン氏は平成22年12月から平成23年3月までスラブ研究センターに滞在する予定です。

なお、第2班の外国人研究員として採用されていた楊成氏は平成22年9月に帰国し、代わってITPのプロジェクトに参加するため雇用が中断していた任哲氏が第2班のプロジェクト研究員として復帰しました。

7. 今後の予定

- 10月21日（木） GCOE スラブ研究センター研究員セミナー（於北海道大学）
- 10月29日（金）～31日（日） 日本国際政治学会部会、第1・4班関連部会（於札幌コンベンションセンター）
- 12月10日（金） ITP国際若手シンポジウム（於大阪ブリーゼプラザ）
- 12月11日（土）～12日（日） 第4回新学術領域研究国際シンポジウム（於大阪ブリーゼプラザ）
- 12月13日（月） 第2・3班合同研究会（於大阪ブリーゼプラザ）、第6班研究会（於大

学コンソーシアム大阪)

8. 各班の研究会情報

第1班

日本国際政治学会2010年度大会

場所：[札幌コンベンションセンター](#)

部会 6 Cold War Alliances : East and West

日時：10月30日（土）9：00～12：00

Moderator : David Wolff (Hokkaido University)

Special Invitation Speaker : Ezra Vogel (Harvard University)

“Deng Xiaoping and New Alliances, 1978 - 1989”

Speakers : Vojtech Mastny (National Security Archive)

“The Ending of the Cold War and Its Alliances : How Much Did They Matter?”

Yasuhiro Izumikawa (Chuo University)

“Statecraft, Balance of Power Theory, and Alliance Politics in Cold War East Asia”

Discussant : Futoshi Shibayama (Kwansei Gakuin University)

部会 15 「ユーラシア地域大国の安全保障戦略」

日時：10月31日（日）14:00～16:30

司会：石井 明（東京大学）

報告：

- ・中野潤三（鈴鹿国際大学）「『多極世界』の中のロシア」
- ・毛利亜樹（同志社大学）「拡大する中国の戦略的空間—海洋安全保障を中心に」
- ・伊豆山真理（防衛研究所）「インド軍の国際的活動—グローバルな役割分担を求めて」

討論：斎藤元秀（杏林大学），高木誠一郎（青山学院大学），広瀬崇子（専修大学）

日本国際政治学会 2010 年度大会については[こちらのHP](#)をごらん下さい。

第2班

GCOE スラブ研究センター研究員セミナー

場所：北海道大学スラブ研究センター4階小会議室

日時：10月21日（木）17：00～19：00

タイトル：中国の基層政府—「安定」と「発展」の間で—

報告者：任哲（第2班プロジェクト研究員）

第2・3班

合同研究会

場所：ブリーゼ・プラザ8階801号室

日時：12月13日（月）午後1時半～4時（予定）

報告者（未定）

第3班

打ち合わせ会議

場所：ブリーゼ・プラザ8階801号室

日時：12月13日（月）午前9時半～12時半（予定）

報告者（未定）

第4班

日本国際政治学会2010年度大会，部会4「地域からの帝国論—比較史と現在」

場所：札幌コンベンションセンター

日時：10月29日（金）13:00～15:30

司会：林 忠行（北海道大学）

報告：

・岡本隆司（京都府立大学）「『主権』の形成—20世紀初の中国とチベット・モンゴル」

・森まり子（東京大学）「民族自治から主権国家へ—帝国解体期のシオニズム運動における民族分離主義の変容1881 - 1948」

・宇山智彦（北海道大学）「グレートゲーム再考—中央アジアにとっての帝国間競争の意味」

討論：川島 真（東京大学）

日本国際政治学会 2010 年度大会については[こちらのHP](#)をごらん下さい。

第5班

9月30日にスラブ研究センターで、プロジェクト研究員の小松久恵により「Home, sweet home? 現代英国エイジアン・カルチャーと移民文学」と題した報告が行われました。概要については[新学術領域HP](#)で読むことができます。

第6班

報告者：アブラム・レイトブラト（ロシア国立図書館、『新文学評論NLO』誌編集委員）

タイトル：社会制度としてのロシア文学—作者・読者と読書の社会史

場所：大学コンソーシアム大阪ルームG

日時：12月13日（月）18：00～20：00

言語：ロシア語

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，阿部僚子

電話 011 — 706 — 4809

ファクス 011 — 706 — 4952

メール rp@slav.hokudai.ac.jp

HP <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目
北海道大学スラブ研究センター